

後記 雜感

「日時・十一月二十二日午後一時試合開始」と記された「安部球場さよなら送別試合全早慶戦」の入場整理券を、いまま手にしています。

『早稲田大学野球部五十年史』の昭和八年の頁には、「七月十日、日本で始めての夜間試合が、早大戸塚球場で行われ、多くの観衆が殺到して球場外に溢れた。」と記されていますが、先の整理券には、上方から放たれた強い光によって、暗闇の中にくっきり照らし出された安部球場を、ネット裏から撮った写真が一面に印刷されています。

大学は明治三十五年に創立二十周年を迎えて、東京専門学校を早稲田大学と改めましたが、その年の十月に戸塚球場は壊成されました。また、昭和二十四年、早大野球部の生みの親である安部磯雄先生を追悼して、その名を安部球場と改称しました。早稲田のシンボルとして親し

まれ、八十五年の輝しい歴史をもつ安部球場は、二十二日の試合を最後に、数々の想い出を残して幕を降します。

舞台がかわって、二十世紀の早稲田のシンボルであった安部球場跡に、二十一世紀のシンボルとして、新中央図書館が建設される運びとなりました。ちょうどこの雑記を書いている時、「早稲田大学中央図書館新築工事着工披露会」の通知を受け取りました。十二月一日に地鎮祭がとり行われます。

大正十四年に完成された鶯のからまつた現図書館は、当時「東洋一」と称されたそうです。今回着工され、昭和六十五年四月に開館予定の新中央図書館は、世界でも屈指の大図書館となりましょう。

先輩の館員の方々は「東洋一」を建物だけに称されることのないよう、資料、図書館活動共に、充実させるべく努力されてきました。その意思を受けついで、新中央図書館が、名実ともに大図書館として、大学の研究・教育活動を中心に、さらに広く、日本の、世界の学問・文化

の発展に寄与できるよう、着実な、また創意を凝らした仕事をしたいたいと思います。

昭和二年に建てられた安部先生の胸像は、新館の敷地内に残されるとのこと。第二代館長であられた安部先生ゆかりの地につくられる図書館が、二十一世紀の早稲田のシンボルとして恥じない働きができるよう、見守っていただきたいものです。

本誌が今後の図書館活動の活性化に役立つ場になればと念じています。

早稲田大学図書館紀要 第28号

昭和六十二年十二月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要編集委員会

発行人 今井 半

印刷所 早稲田大学印刷所

発行所 早稲田大学図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一